

事務局からのお知らせ

《瑞宝双光章を受章》

特定医療法人尾中病院院長の眞宅 篤先生が、長年にわたり県警嘱託医として警察業務に協力された功績により瑞宝双光章を受章されました。

心からお祝い申し上げます。



眞宅 篤先生
（山口県病院協会理事）

第4回日本医療マネジメント学会山口地方会の開催

第4回日本医療マネジメント学会山口地方会が柳井市で下記のとおり開催されますので、奮ってご参加下さい。

テーマ「医療サービスの“今”と“これから”」

開催日 平成18年3月18日(土) 13:00～

場 所 アクティブ柳井（山口県柳井市）

会 長 守田知明（周東総合病院長）

参加費 2,000円

会 員 異 動

院長の交代	（変更後）	（変更前）
・長門総合病院	森田 高生	中山 富太

これからの病院協会の主な行事予定

1月20日	四県病院協会連絡協議会
1月20日	第5回常任理事会
2月7日	病院中堅看護師研修会
2月23日	冬季医療経営講習会
3月上旬	事務長部会研修会
3月中旬	医療事務担当職員研修会



編集後記

新年、明けましておめでとうございます。今年も良い年でありますように。

新年号には、本協会会長西田健一、山口県看護協会会長兼安久恵さまのご挨拶を頂き、さらに、県内会員から新しい年の心意気を感じさせる所感を掲載しました。関係者に改めてお礼申し上げます。

昨年話題の一つに石綿による「中皮腫」がありました。両者の関係は1970年はじめごろ判明し、1971年には「特定化学物質等障害予防規制」で石綿使用について国内初の規制が設けられています。禁止ではなく、規制であったため、一番毒性が弱いとされていた白石綿は2001年まで使用されてきました。その理由を関係者は“代替が難しく使用を継続した”とか“メーカーには供給責任がある。市場のニーズが高ければ高いほど、石綿と同等な製材が開発されない限り、石綿を市場に供給せざるを得ない”と述べています。この話しを医療に置き換えて欲しいと思います。どこの病院でも殺到する患者さんの対応に、一日中追いまくられ、吟味しながら仕事をするような状態ではありません。しかし、医療事故が生じれば、石綿関係者のように“患者さんが多いからやむを得なかった”と言い訳することは出来ません。ひたすら低頭するだけです。このような状態で品位ある良質な医療を患者さんに提供できる筈がなく、被害を受けるのは患者さんです。

本年4月に改正される診療報酬が医療環境を悪化させるものでなければよいと祈る気持ちです。（江里健輔）